問 安心できる介護保険制度を
答 状況を見ながら検討

増富理津子 議員（共産党）

問8月から生活保護基準の引き下げが強行された。受給者の暮らしを直撃し、生活を支えるさまざまな制度にも影響を及ぼす。本市における「生活保護基準引き下げ」の状況、各制度への影響、市民の生活を守るための対策を。市民生活を守るため市長が国、府に対して今こそ要望を。

健康福祉部長　8月から世帯平均2・2%、月額2100円の減額となっている。他制度への影響が出ないように対応していきたい。

和気あいあいと集団活動を行うデイサービス（常盤苑）

ランティアやNPOなども担い手にして、コスト削減をはかる等の改定をしようとしているが、市民への影響と対策について市の考えは。

健康福祉部長　現在、要支援504人。本市では、今期、地域支援事業の中で介護予防日常生活支援総合事業は取り入れていない。理由は、NPOやボランティア等受け皿がない。全国的にも取り組みは少なく京都府でもない。そういう状況で、国がどう法制化されるのか非常に疑問。このような動きを見ながら、市としても検討。

市長　今の段階においては答弁を差し控えたい。

市長　今後とも国や府に要望をしていきたい。

問政府は、2015年4月から介護保険の「要支援1、2」の人を介護保険のサービスから切り離し、市町村が実施する地域包括推進事業に移し、介護事業者のほか、ボ

問子どもの心身の発達に「食」は大きな影響力をもつもの。学校教育における給食の位置づけと役割について教育委員会の認識と見解を問う。

教育長　給食については、食育基本法や学校教育法によって定められたもの。今回の事業も趣旨としては法のとおりで、実施するという重要性は変わらない。今後、引き続き給食についての研究は必要であると認識している。

問 甘南備園の更新計画実施は
答 単独か広域の可能性を

岡本茂樹 議員（一新会）

問京田辺市地球温暖化実行計画についてア地球温暖化についての基本認識と基本戦略は。イ具体的対策と実現性は。

市長　ア平均気温の上昇や局地的豪雨に見られる異常気象、また生態系への影響など、世界的に深刻な問題であると認識。本実行計画に基づき温室効果ガスの排出削減に向け、市民、事業者、市が役割分担し、省エネ活動の実践や再生可能エネルギーの導入などの取り組みを進める。

経済環境部長　イあらゆる施策の実施により、平成29年度を目標年度に、21年度対比8%のCO2削減を目指す。本実行計画の縮刷版パンフを作成中。全戸に配布し、その削減の重要性をPRしたい。

問甘南備園ごみ焼却施設の更新計画についてア現施設の建設からその後の整備内容は。イ耐用年数の期限とされる32年度以降への更新計画は。

経済環境部長　ア昭和61年12月竣工、稼働。その後基幹的な設備改良工事を順次実施。平成31年度までは十分稼働できると判断。イ市民の協力のもと、ごみの減量化を徹底して推進し、焼却施設の建て替えによる単独処理にとどまらず広域処理などあらゆる可能性を探っている。

更新計画年まであと7年となったごみ焼却施設（甘南備園）

問桃園小、大住中音楽関係クラブへの支援について。桃園ジュニアバンド、大住中吹奏楽部の活躍に対し、今後設備や指導者の面で、より積極的な支援をしていく考えは。

教育部長　桃園小ジュニアバンドは、府大会で金賞受賞、音楽室や大型楽器の使用を認めている。毎年大活躍の大住中吹奏楽部に対し、高額楽器の購入や大会へのバス代、楽器運搬代などを助成。今後とも指導者や学校関係者の意向も聴き、市長や教育長の激励と共に支援のあり方についてさまざまな角度から検討。

問 要援護者個別避難計画は
答 個別の情報をまとめ策定

櫻井立志 議員（公明党）

問改正災害対策基本法の成立を受け、災害時要援護者の名簿作成が市町村に義務付けられたが、本市の対応は。

健康福祉部長　既に災害時要配慮者避難支援計画を策定し、その中で基礎名簿を作成、整理、管理を行っている。

問名簿を基にして、一人ひとりに合った個別避難計画は策定できているか。

健康福祉部長　名簿運用の最終形として、個別の情報をまとめた計画策定を目指して今後進めていく。

問避難所における良好な生活環境の確保は。また、避難所運営マニュアル策定は。

危機管理監　平成23年度から計画的に広域避難所に防災倉庫を設置し、簡易トイレ、毛布などの生活関連物資の備蓄を進めてきた。福祉避難所も4月に3施設と協定を締結した。今後も順次進めていく。一方、避難所運営マニュアルについては、避難所運営の研修訓練を実施し、地域と市と共通の認識を持ち、地域の方の意見を聞くなかで、今後どのようなマニュアルになるか、検討課題としたい。

問自殺問題における本市の減少対策と自殺対策条例制定の考えは。

健康福祉部長　23年度より、電話による相談支援事業「ひとやすみコール」の実施や市ホームページに「こころの健康―支え合おう心といのち」を立ち上げ、対策を実施。また、自殺予防ゲートキーパー養成研修も実施している。条例制定は、府において25年度制定に向けた検討を進めており、府と連携を図り、その内容を注視していく。

9月に実施された避難所運営訓練（薪小学校）

問市民の健康増進を図るため、健康マイレージ制度を導入する考えは。

健康福祉部長　本市の「健康パスポート」事業を充実、拡大するなかで、他市の事例も参考にしたい。

用語の解説

◆特別警報

（2面8段目）

「特別警報」とは予想される現象が特に異常であるため、重大な災害の起こるおそれが著しく大きい旨を警告する新しい防災情報で、大雨、津波、火山、地震（地震動）などの現象に対して発表される。

特別警報について、都道府県においては市町村への通知、市町村においては住民への周知の措置が義務付けられている。

◆玉露

（2面8段目）

玉露とは、茶摘みの20日から30日ほど前の一番茶の新芽が伸びる時期に、茶畑の全面を日よけで覆い、直射日光を遮った下で育て新芽だけを摘み加工したお茶のことをいう。

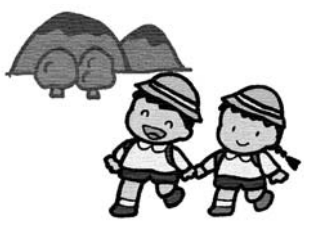
光を遮ることにより、お茶の旨味成分であるアミノ酸が豊富になり、渋みのもとであるタンニンが少なくなるため、豊かな香味とまろやかな甘味のある上品な味わいとなる。緑茶・日本茶の最高級品と言われる。

なお、日本一のお茶を決める全国茶品評会において、今年、本市の玉露が日本一となった。

◆耐震シェルター

（4面左1段目）

さまざまな理由で大がかりな耐震改修ができない場合に、住宅内の一部に木材や鉄骨で強固な箱型の空間（シェルター）を作ることによって、家屋が倒壊しても一定の空間を確保することで命を守ることができるもの。



◆HUG

（5面右6段目）

H（避難所）U（運営）G（ゲーム）の頭文字を取ったもの。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応するかを模擬体験するゲームのこと。

◆ADHD

（5面左1段目）

「注意欠陥・多動性障害」と呼ばれており、多動性、不注意、衝動性などの症状を特徴とする発達障害の一つと言われている。じっとしている等の社会的ルールが増加する、小学校入学前後に発見される場合が多い。注意力を維持しにくい、時間感覚がずれている、様々な情報をまとめることが苦手などの特徴がある。適切な治療と環境を整えることによって症状を緩和することも可能。脳障害の側面が強いとされ、しつけや本人の努力で対処するのは困難であることが多い。